

日本学術会議 地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 (第 24 期第 2 回) 議事録

日時： 平成 30 年 7 月 2 日 (月) 10:00-12:00

場所： 日本学術会議 5 階 5-C (2) 会議室

出席者： 山形俊男 (委員長)、青山道夫、沖野郷子、蒲生俊敬、川口慎介、窪川かおる、齋藤文紀、張 勁、新野宏、野村大樹、花輪公雄、原田尚美、渡邊良朗 (五十音順)

欠席者： 植松光夫、白山義久、日比谷紀之、古谷研、益田晴恵、升本順夫 (五十音順)

議事概要：

1. 新しい特任連携会員の参加があるため全員が自己紹介をした。青山委員は WG147、野村委員は WG152 に共同議長として参加している。
2. 山形委員長と張副委員長より、SCOR 役員の改選があり、議長 1 名、副議長 3 名が推薦されていることが紹介された。2018 年 9 月の SCOR 総会にかけられ、問題なければ全員が役職に就く見通しである。日本からは張副委員長を副議長に推薦している (資料 3)。
3. 張副委員長より 2019 年富山に誘致した SCOR 理事会の準備状況が報告された。2019 年 9 月 22 日 (日) に公開講演会、23 日—25 日に理事会を予定している。25 日—29 日は同所にて海洋学会秋季大会が予定されているため、25 日に共催でシンポジウムを開催することを考えている。ちなみに理事会の参加人数は平均して 30 名 (多い時は 40-50 名) 程度である。オブザーバー出席ができる。
4. SCOR WG プロポーザルのレビューを行った (資料 1-1 から 1-10)。全委員の採点を Must (5 点)、May (3 点)、Not (1 点) として算出した平均点と出席委員からのコメントを総合的に判断し、SCOR 事務局に次のレビュー結果を提出することにした。Must ランク (MetaZooGene、CSIF)、May ランク (Fluoresce、SOCOMv2、FOO_BP、C-GRASS)、Not ランク (WG-OGOD、CURNet、Coats-BRO)。なお、資料 1-1 に転記ミスがあったが、今回の審査には影響しないことから、閉会後にメール配布で差し替えることにした (資料 1~10)。
5. 沖野委員より、以下のような学術研究船白鳳丸の今後に関する現状の説明と SCOR 分科会における検討の要請が以あった (資料 2-1、2-2)。「白鳳丸の老朽化と観測機器の古さが問題になる中、大気海洋研究所ではかねてより代船の検討をしてきたが、JAMSTEC に白鳳丸廃船案があることが判明したため、緊急に白鳳丸存続要望書を賛同する学協会から取り纏めている。これは日本の海洋科学研究の危機であり、日本学術会議の勧告に基づいて東京大学海洋研究所と 2 隻の学術研究船 (淡青丸・白鳳丸) が建造された歴史的経緯を顧みるならば、容認しがたい事態と考えられる。」SCOR 分科会として、国連総会で「持続可能な開発のための海洋科学の 10 年」の公式宣言がなされ、我が国においては第三期海洋基本計画が本年 5 月に閣議決定され、科学的知見の充実が主要政策の一つとして取り上げられている折から、こうした緊急事態に対して海洋コミ

ユニティーからの声を如何に高めるかについて議論した。意見交換の結果、白鳳丸の緊急問題への対処に加えて、より長期的視点から我が国の海洋教育を含めた海洋調査研究のあるべき姿を描くことにした。前者については年内に SCOR 分科会主催のシンポジウムを開催することとし、沖野委員と役員で内容案を作成することにした。後者については、統計資料などを整理、収集したうえで、「提言」あるいは「報告」として意見を発出することを検討することにした。

配布資料

資料 1-1 Active Chlorophyll fluorescence for autonomous measurements of global marine primary productivity (評価コメント一覧)

資料 1-2 The Surface Ocean CO₂ Mapping intercomparison initiative: Phase 2 (評価コメント一覧)

資料 1-3 Ocean Governance and Policy Analysis for Ocean Deoxygenation (評価コメント一覧)

資料 1-4 Carbonate system intercomparison forum (評価コメント一覧)

資料 1-5 Toward a new global view of marine zooplankton biodiversity based on DNA metabarcoding and reference DNA sequence databases (評価コメント一覧)

資料 1-6 The Caribbean Upwelling Research Network (評価コメント一覧)

資料 1-7 A Framework for Ocean Observation for the Next Generation -expanding quantifiable methods and Best Practices (評価コメント一覧)

資料 1-8 Coordinated Global Research Assessment of Seagrass Systems (評価コメント一覧)

資料 1-9 Co-ordinated approach for Aerosol Trace Element Solubility and Bioavailability

Research in Oceanography (評価コメント一覧)

資料 1-10 2018 SCOR-WG proposals (評価ランク一覧)

資料 2-1 白鳳丸要望書

資料 2-2 学術研究船白鳳丸の今後について

資料 3 Nomination Letter (Japan national committee for SCOR)

以上。